

## 在日外国人生徒は充実した学校生活が送れているのか

3年3組34番 三好まのあ

Keyword:「在日外国人生徒」

### 1.はじめに

子どもに关心があり、将来子どもに関わる仕事をしたいと思っており、これから役立つ探究をしたいと思った。国際高校に入学し、外国にルーツのある生徒や留学生が当たり前のようにクラスにおり、日本には外国にルーツのある子どもがたくさんいることがわかった。在日外国人問題についての授業の際、小中学生の時に辛い思いをしたことを聞き、この現状を少しでも変えたいと思った。

### 2.序論

これから先、色々な事情で日本に住んでいる外国にルーツのある子どもが増えると考え、その子どもたちが日本の子どもたちと同じように充実した学校生活を送ってほしいと思った。そのためには、現状を少しでもみんなにわかってもらい、みんなにこの問題に向き合ってもらう。

今の現状を知るために国際高校にいる在日外国人生徒や留学生、その子の周りにいる外国にルーツのある子達にアンケートを行う。アンケートの内容は、「日本の学校に来て大変だったことや、嫌だったこと」「日本人の生徒にして欲しいことや、理解して欲しいこと」「インターナショナルスクールなど専用の学校ではなく、公立学校に通おうと思ったのか」その結果を元にポスターを作成し、地元の小学校や中学校に掲示をしてもらい、ポスターを見て、感じたことや理解度のアンケートを行う。

### 3.本論

インターナショナルスクールは公立の学校に比べ学費が高額であり、全員が入学できるわけではなく、順番待ちである。日本語の学習ができない。学校が少なく、通学が不便などの意見があった。

「在日外国人生徒は日本人生徒に偏見を持たれ、日本との違いを受け入れてもらはず、日本人生徒と同じ扱いをしてもらえない。」「日本語や日本に興味のない在日外国人生徒はいないので、日本語や何でもいいから話しかけてほしい。」「インターナショナルスクールは公立の学校に比べ学費が高額であり、全員が入学できるわけではなく、順番待ち」「日本語の学習ができない。」「学校が少なく、通学が不便」というアンケート結果が出た。

この結果を元に在日外国人生徒が思っていることを簡単にまとめたポスターを制作し王寺南義務教育学校に掲示とアンケートの実施をお願いしに行ったが「在日外国人問題は簡単に扱う問題ではない」と断られた。

王寺南義務教育学校では在日外国人問題についてまだあまり授業を行っていないのかもしれない。学校内に在日外国人生徒はいなく、あまり身近に感じてないのかもしれない。



#### 4.結論

在日外国人は増えてきているが、地域によって理解には差がある。在日外国人が住んでいる地域では身近に感じることができ、住んでいない地域では身近に感じることができない。そのため、学校でも授業が盛んに行われないのかもしれない。この問題をもっと身近に感じてもらうために、国際高校の魅力もある、在日外国人や留学生が当たり前のように教室にいる状況を発信していくべきだとおもった。

#### 5.おわりに

国際高校に来た意味、グローバル探求を通して在日外国人生徒を身近に感じ、授業を通して在日外国人生徒がたくさんの苦労をして学校生活を送っていることを知った。「国際高校に入学して在日外国人生徒に偏見を持つ人がいなくて過ごしやすい。嬉しかった。」という言葉を聞いた時、他の学校では在日外国人に偏見を持ち、バカにする人が多いのだろうなと思った。もっとこの現実を改善するために、これから出会う在日外国人には積極的に声をかけ、今からでも小さい時に傷ついた心を少しでも癒してもらえたならと思う。また、将来子どもの前に立った時には、この現実をわかってもらい、これから出会う在日外国人に適切な行動ができるようなことを発信していきたいと思った。

#### 6.参考文献・出典 なし